

# 江戸名所花見双六

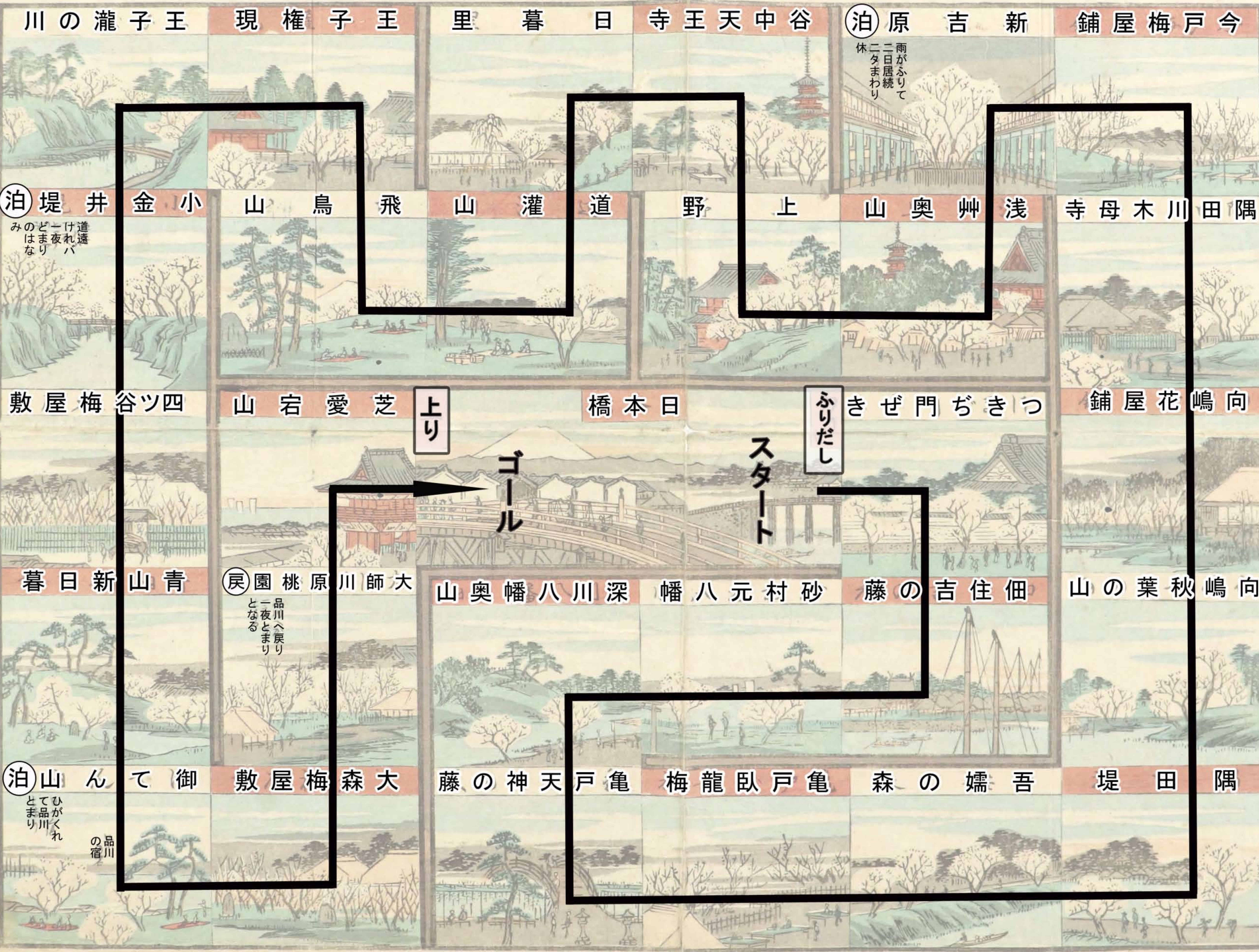
この双六は上りもふりだしと同所なれば、にほんばしより右のかたへ糸引にならいて順にまわり、左のかたより日本橋へなすり、もどりて上りなり、

一つあまれハあたごへかへる、二つあまれハ大師河原と順にかそへもどるなり、

休のかづは小書をよく御読被成候

広重筆

野田屋空右衛門板



道のけな  
はま夜バ  
みのどーけ  
はま夜バ  
な

泊  
雨がふりて  
二日居続  
休  
二タまわり

上り

ふりだし

スタート

ゴール

品川へ戻り  
一夜とまり  
となる

品川の宿  
ひがくれ  
て品川  
とまり